

# One Island, One People, One Future

## ～起業家養成塾 「島スクエア」から 漕ぎ出す“ひとつ”の未来～

起業家養成塾「島スクエア」

コーディネーター

大野 圭司

(山口県周防大島町)



僕は、僕の子どもたちが大人になって  
いる2030年に、「周防大島のどのム  
ラにも、子どもたちの笑い声が聞こえて  
来るために。」を実現させるために生き  
ている。

そのためには、親が  
島で生計を立てられる  
「仕事」が必要だ。今、  
小学校等に通ってい  
る子どもたちが大人に  
なった時に、同窓会の



この子たち  
大人になる  
頃には

さて、瀬戸内海で3番目  
に大きく、人口約2万人の  
周防大島町(山口県)は、平  
成16年10月1日に島内4町

### 周防大島が目指す風土

こんな会話があちこちで聞こえる島に  
したい。この想いを胸に4年9ヶ月前、  
僕は東京からUターンし、土建屋で働き  
つつ、週末起業でフリーペーパー「島ス  
クエア」を創刊し、都合12号発行してき  
た。

「オレら  
の親は、オ  
レらがこん  
まい時から  
「島おこし」  
じゃあ言う  
てから盛り上  
げて、新しい  
商売が増えたよ  
のお。今働いとる  
会社の忘年会を、  
「ちどり東京店」  
でやったら、魚が  
ぶちうまいって社  
長にも大評判で、  
自慢じやった！来年で30になるし、島に  
帰って経験とスキルを活かして「起業」  
したいと思っちょるんよ。」



瀬戸内海に浮かぶ金魚型の周防大島の位置図

### 島スクエアは故郷の 地域再生に 「奔走」できる仕事

が合併し、高齢化率47%、本  
州と橋で結ばれている島で、  
全国で少子高齢化に悩む自  
治体のひとつだ。その周防  
大島の地域再生に必要な三  
要素に、「環境」・「仕組み」・  
「風土」があると考えている。  
「起業」というテーマに絞れ  
ば、「環境」とはチャレンジ  
ショップ等の起業支援施設  
の整備。「仕組み」とは、起  
業家を育成するための起業  
塾。「風土」とは、環境と仕  
組みを連動させ、周防大島  
が起業家マインド溢れる土  
地柄になる事だ。

「島スクエア」とは、大島商  
船高等専門学校が平成20年度  
文部科学省「地域再生人材創出  
拠点の形成」に採択された、情  
報技術を利用して、地域資源(農漁産品  
と観光)を活用した新商品やサービスの  
開発・販売を目指す起業家の育成を目的  
とした「仕組み」づくり事業の愛称だ。  
その目的を達成するために、周防大島  
町とは地域再生計画(内閣府認定)を、  
民間事業者とは起業支援人材Bankを





島スクエア <http://www.oshima-k.ac.jp/shima-sq/>  
 島スタイル <http://dreamkids.typepad.com/>

同じ連携し、現在、「起業家養成基礎コース」・「体験型観光起業コース」・「商品開発起業コース」・「Web・動画クリエイタ養成コース」の4コースを開講している。初年度は、起業家養成基礎コース1期生18名が修了し、修了生は、応用コースに進んでいる。起業家養成基礎コースは、島にU・イターンし、起業を志している方と島や近隣在住の方で、周防大島の地域資源を活用した事業構想を持つ方を対象とし、起業や新規事業のプランニングを学ぶ事を目的に、5月から毎週金曜日の夜、全12回で開講している。

全12回は、周防大島の起業ニーズと現状・現状分析(SWOT分析)・マーケティング戦略・数値計画・事業計画書の



島スクエアフォーラム2009でプレゼンテーションを行っている1期生



島スクエア1期生の講義風景

完成と中間発表・成功起業家から学ぶ・事業計画のブラシユアアップ・修了発表準備・修了プレゼンテーションの9つの要素で構成され、修了要件として、出席率80%（実出席50%必須）・事業計画書の作成・プレゼンテーションの3つが課されている。

1期生には、神奈川県藤沢市から本籍ごとイターンされ、「自然体験学校」で起業中のご夫婦。奥様の故郷、周防大島へ家族で兵庫県西宮からイターンし、「生パスタのお店」で起業準備中の男性。島で教員をされながら島野菜の定期便で起業準備中のご夫婦等、年代もテーマも多様なメンバーが集まった。島スクエア

は、5年間の補助事業で、僕はコーディネーターとして、成功のために様々な仕事を任せて頂いている。国の補助事業を自分の仕事にするとは、納税の義務を果たしているならば、税収を財源とした国の「政策」を活用し、故郷の地域再生に「奔走」できる仕事とも言える。だからこそ、島スクエアを大きなきっかけとし、周防大島再生へ走り続けたい!

### 伊予と周防大島の歴史海道

伊予と周防大島をつなぐフェリーが発着する伊保田は、僕が生まれ育ったムラだ。母校の中学校は昨年度で廃校となり、益々疲弊しているが、伊予と周防大島を海上で結ぶ「国道437号線」を戦国時代の「伊予河野氏」と直属水軍「来島村上氏」の「歴史海道」として、経済と交流を復活できれば、島のもう一つの玄関口として再生可能だと考えている。

「One Island,  
One People,  
One Future!」

起業家養成塾「島スクエア」から漕ぎ出す「ひとつ」の未来を、教室から見える、夏に歩き出した周防大島の青空に透かしながら。



海上国道437号線で伊予と周防大島を結ぶフェリー